KCMY　山陽新聞　2014／6／15　広27　15版　【18】　アノテーション＝正常終了！　共通

おかやまコープ　再建40周年

人と地域とくらしをつなぐ

食品の「安全」を追求

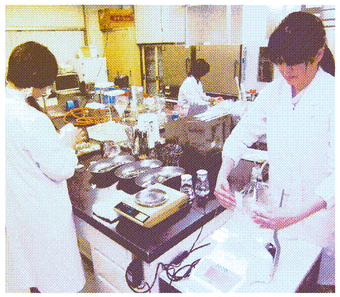
おかやまコープは、自分たちの扱う商品が安全で確かな品質を持つ、かつお求めやすい価格であることを大切にしています。この思いの原点には、かつてカネミ油症事件など化学物質が食品に混入して人体に大きな害を与える事件が発生したり、いったん許可されていた食品添加物の指定削除が相次ぐなど一食の安全性が感じた危機感と、自分たちの食の安全は自分たちで守らなければという決意があります。

食品衛生法改正の取り組み

こうした思いから食品の安全を願う消費者運動が活発化したのを受け、消費者保護や情報公開、食品の情報表示の適正化などについて署名と議会請願が行われ、72年には食品衛生法が一部改正されました。さらに消費者運動は生協をはじめ多くの組織や個人へも広がり、1980年代から90年代にかけ、徐々に食品添加物など化学物質の使用に関する制度が改善され始めました。

おかやまコープも80年代には食品添加物の一覧価格表反対運動にも取り組んでいます。今年3月のソチ・パラリンピックでもウェアの胸に「CO・OPのコマーシャルとして、同チームの活動を応援。2010年冬季のバンクーバー・パラリンピックより、コープ商品をはじめとする食料品などの提供で金、ソチで4位の活躍に繋がりもしています。

全国の生協や消費者団体と協力して


「おかやまコープ商品検査室」で独自の検査を実施

また、行政への働きかけだけでなく、おかやまコープは安全な食品を組合員に届けるため独自に食品添加物や農薬などに対する考え方をまとめた「食の安全基準」を1999年に策定しよりきびしい基準で判断した商品を展開。最新の食の事情に合うよう改定を続け、科学的な分析で安全性の高い食品を提供する努力を続けています。

おかやまコープは、自分たちの扱う商品が安全で確かな品質を持つ、かつお求めやすい価格であることを大切にしています。この思いの原点には、かつてカネミ油症事件など化学物質が食品に混入して人体に大きな害を与える事件が発生したり、いったん許可されていた食品添加物の指定削除が相次ぐなど一食の安全性が感じた危機感と、自分たちの食の安全は自分たちで守らなければという決意があります。

食品衛生法改正の取り組み

こうした思いから食品の安全を願う消費者運動が活発化したのを受け、消費者保護や情報公開、食品の情報表示の適正化などについて署名と議会請願が行われ、72年には食品衛生法が一部改正されました。さらに消費者運動は生協をはじめ多くの組織や個人へも広がり、1980年代から90年代にかけ、徐々に食品添加物など化学物質の使用に関する制度が改善され始めました。

おかやまコープも80年代には食品添加物の一覧価格表反対運動にも取り組んでいます。今年3月のソチ・パラリンピックでもウェアの胸に「CO・OPのコマーシャルとして、同チームの活動を応援。2010年冬季のバンクーバー・パラリンピックより、コープ商品をはじめとする食料品などの提供で金、ソチで4位の活躍に繋がりもしています。

地産地消や食料自給率アップ推進

「おかやま育ち」商品として開発・普及している食品

毎日食べるものだから安全で安心なものを選んでほしい。コープの願いです。その思いの基礎となる商品を岡山県産で「こだわり育ち」などのオリジナルブランドには多くの地場産品と受け継がれてきたおかやまコープの願いです。その思いの基礎となる商品を岡山県産で「こだわり育ち」などのオリジナルブランドには多くの地場産品が使われ、新鮮でおいしく、管類できる商品として食卓に届けられています。

コープ産直こめたまご

「おかやま育ち」にこだわり育てられたコープのブランド商品の代表的な商品が「コープ産直こめたまご」。おかやまコープの指定する県内8農場で生産されており、生産者カードを見ることで生産者が分かる卵は安心できる品質が自慢です。また、明るく風通しのいい開放鶏舎や飼養の定期的な検査、ワクチンの使用制限など厳しい基準で飼育された鶏の健康と安心の質を確保。使用する飼料にもこだわり、遺伝子組み換え穀物やコシは非遺伝子組み換え品種を契約農家で栽培し収穫後も農薬を使用しない流通管理体制を徹底しています。このトウモロコシに魚粉や生米ぬか、岡山県産中心の飼料用米を配合した飼料を使うことで、安全の徹底、地産地消と食料自給率向上の推進を図っています。

耕畜連携や循環型農業を応援

このほか、コープおかやま豚・おかやまコープが推進されているおかやま育ちなどの県産品のブランド化や飼料用米・稲わらを使った畜産物の利用米・稲の利用といった活動は、地産地消や食料自給率向上など日本の農業を守るために非常に重要な取り組みであり、今後とも期待しています。

農林水産省　中国四国農政局消費・安全部　消費生活課　西ノ坊嘉治課長

「岡山県産」や「こだわり」を大切に

「おかやま育ち」とは

「おかやま育ち」は主要原材料に岡山県産の農水畜産物を使い、おかやまコープとコープ中国四国事業連合が開発した商品と、県内産農水畜産物のブランドで46品目あります。地産地消の推進とともに「県内産」にこだわることで、地元の活性化につながる商品展開を行っています。

「こだわり育ち」とは

「こだわり育ち」は産直の野菜や水産物、畜産物、たまご、米、牛乳の中で「それぞれの基準に基づき優れた特長をもった産直商品」のブランドです。「生産者と生産地、飼料・飼育方法が明確で相互信頼と生産者が進んで交流できること」という産直原則を基本条件に、さらに優れた特長のある商品をお届けしています。

「おかやま育ち」商品として開発・普及している食品

「岡山県産」や「こだわり」を大切に

「おかやま育ち」とは

「おかやま育ち」は主要原材料に岡山県産の農水畜産物を使い、おかやまコープとコープ中国四国事業連合が開発した商品と、県内産農水畜産物のブランドで46品目あります。地産地消の推進とともに「県内産」にこだわることで、地元の活性化につながる商品展開を行っています。

「こだわり育ち」とは

「こだわり育ち」は産直の野菜や水産物、畜産物、たまご、米、牛乳の中で「それぞれの基準に基づき優れた特長をもった産直商品」のブランドです。「生産者と生産地、飼料・飼育方法が明確で相互信頼と生産者が進んで交流できること」という産直原則を基本条件に、さらに優れた特長のある商品をお届けしています。

〈おかやまコープの事業〉

ふだんのくらしに役立つ

【宅配事業】

毎週、お配りする商品案内カタログを見て注文いただいた食品や生活用品を、毎週決まった曜日、場所にお届けします。県内17カ所の配送センターを拠点に県内くまなく配達し「班」で決められた場所への配達や個人のご自宅の玄関先までお届けする「個別配達」で、毎週12.5万世帯にご利用いただいています。高齢者や産前産後の家庭などで利用されている夕食宅配「たべてん便」では、高齢者の見守りも行っています。

宅配センター

【店舗事業】

ふだんの毎日の食卓に欠かせない食品を中心に、安全・安心のコープ商品をはじめ、新鮮でお買い得な商品を取り揃えているお店を県下に11店舗展開しています。地域にお住まいの方の冷蔵庫代わりに使っていただけるお店をめざして、特に肉、魚、野菜等の生鮮品の提供に力を入れています。マイバッグ持参運動をすすめ、環境への配慮や全店「ももっとカード」協賛店として子育て世代を応援しています。

コープ福富

【福祉事業】

助け合いの福祉活動を基盤にスタートした福祉事業です。利用者の立場に立って、よりよい介護サービスの提供をめざしています。岡山市と倉敷市を中心に、居宅介護支援事業(ケアマネジメント)や訪問介護事業(ホームヘルプサービス)、通所介護事業(デイサービス)の介護保険事業を行っています。

デイサービスオルガ

【共済事業】

けがや病気、災害など組合員のくらしの「もしも」を手ごろな掛金で保障する安心のCOOP共済です。「自分の掛金が誰かの役に立つ」という組合員どうしの「助け合いの心」を形にした、生協ならではの共済です。

入院や手術、けがなどを幅広くサポートするCOOP共済「たすけあい」をはじめ、ニーズに合わせた多彩なプランが選べます。

共済キャラクター「コーすけ」

【コープP&S事業】

コープP&S(ピーアンドエス)は、おかやまコープの子会社です。さまざまなサービスを通じて組合員のくらしをサポートしています。旅行やプレイガイド、オルガホール、増改築などのホームサービス、保険、フィットネス、カフェなどくらしを豊かにするさまざまなサービスや商品を提供しています。

オルガビル

企画・制作／山陽新聞社広告本部

障がい者クロスカントリー日本チーム

ソチ・パラリンピックで活躍した障がい者クロスカントリー日本チーム

ソチ・パラリンピックで日本チームに提供したコープ商品の一部

日本生協連が応援

日本生協連は、2005年より「障がい者クロスカントリー日本チーム」のチームスポンサーとして、同チームの活動を応援。2010年冬季のバンクーバー・パラリンピックより、コープ商品をはじめとする食料品などの提供で金、ソチで4位の活躍に繋がりもしています。

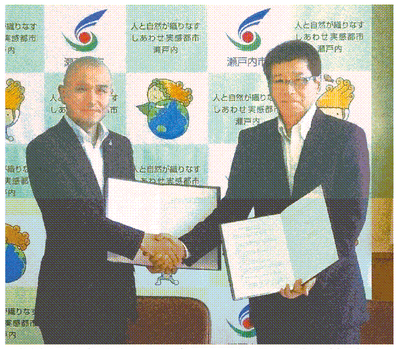
行政と連携し地域づくり

おかやまコープの宅を積極的に行うことを配事業では山間地や離島など買い物に出かける人の多い地域に住んでいる人へ生活に必要な商品を届け、配達時や個別訪問時に高齢者宅の見守り活動を行うなど地域に寄り添う活動をしています。

生協の活動に期待

このような活動について2013年3月の厚生労働省社会援護局関係主管課長会議資料では、「生協は地域での人と人とのつながりによる組織であることから、地域社会への貢献として「高齢者等の孤立防止や見守り、買物支援等行う見守り活動や環境保全、地産地消推進などの活動も行っていくことにも期待を寄せています。

瀬戸内市と包括連携協定


協定書に署名後、握手するおかやまコープの平田晶三理事長（右）と瀬戸内市の武久顕也市長

瀬戸内市　武久顕也市長

おかやまコープは自治体と災害時の物資支援協定を結んでいます。岡山県と岡山、倉敷、津山、赤磐、瀬戸内の5市で、特に瀬戸内市とは昨年8月に包括連携協定を締結。この包括連携協定では災害時の支援協力に限らず、平常時の個別配達でも、一人暮らしの高齢者宅で新聞や郵便物がたまっているなど生命の危険が予測できる異常を発見したとき、警察などへの通報を図っていきたいと考えています。

地域における生協の社会的役割を発揮

瀬戸内市で行われている耕作放棄地を活用したトマト栽培

耕作放棄地を活用 障がい者雇用

トマト生産事業のための子会社コープファームおかやまを昨年7月に設立。総床面積7,410平方mの栽培ハウス(第一、第二農場)で最新の独立ポット耕栽培による、糖度と酸味のバランスが良いおいしいトマトをつくっています。

栽培されたトマトはおかやまコープで、安全・安心のトマトとして厳選される予定。農業をなるべく減らして育て、栽培スタッフに障がい者を雇用するなどさまざまな地域への配慮がなされています。

トマトは同コープで最も販売量が多い野菜ですが、産地は県外がほとんど。なんとか県産品を使いたいという思いもあったと言います。収穫は今年夏ごろから始まり、組合員の食卓に届けられる予定です。

マスコットキャラクター「トマリン」

新鮮でおいしいトマト 食卓へ

積極的に子育て応援

情報交換や交流の場に

県内7店舗で開かれている「子育てひろば」は親子連れの気軽なふれあいの場として人気

社会環境の変化にともない子育てが不安だったり、ストレスと感じる人が増えている」と感じているおかやまコープは「子育て応援」に力を入れています。

「応援の内容は、宅配の個配手数料が半額になる「子育てサポート」や、おかやま子育て家庭応援カード「ももっこカード」に協賛しての子育て家庭応援や、2012年度にスタートした「子育てくらぶ ぷにぷに」では「お産生日プレゼント」や「育児提供などを応援し、会員数は8,766人（14年3月現在）となっています。

県内7店舗で子育てひろば

また、県内7店舗で「開かれている同コープの応援の取り組みの一つに子育てひろばが、人気を呼んでいます。5月14日に岡山市北区のコープ大野辻子育て広場ひろばには、計22人の親子が参加した平尾聡子さん（30）は「一緒に同世代の子どもたちが参加しているので、よく利用しています。自分と同じ立場のお母さんたちが話をするのを楽しみにしています」とにっこり。

細やかに生活支援サービス

「お互いさま」の心で支え合い

「くらしの中でちょっと困った」人からの電話を受け、おかやまコープの事業や活動、地域の団体などが「困ったことの解決の応援をする「おかやまコープ生活支援サービス」が昨年10月に始まりました。

同サービスを利用している津山市の小畠初音さん（88）は家の中の掃除や窓ふき、庭の草取りなどの支援を受けています。小畠さんは「国さんによくしていただき本当に助かっています。来てくださるのは気立てのよい人ばかりなので「友達にも話したくなってすよ」と話しています。

日々の料理の手伝いなど「お互いさま」の気持ちで支え合うのがおかやまコープの生活支援サービス

くらしの困りごとは、おかやまコープ生活支援サービス 総合窓口
みんなハッピー コープ
0120-378-502　月～金曜 9:00～17:00
商品やサービスに関するお問合せは
問合せセンター 0120-662-538　月～金曜 8:30～21:00 土曜 8:30～18:00
はるちゃん

おかやまコープのあゆみ

1974年　旧岡山生協（事業上の側面）再建活動が最も活発な年
共同購入生協として4人の職員と50人の組合員で事業開始
1974年7月　再建現代会館竣工
1976年　開発商品第1号として食パンを開発
「岡山市民生協」に名称変更
1979年9月　新配送センター（東岡山センター）完成
1981年　組合員数1万世帯に
1983年　店舗エリア全岡山県全域（玉野市・瀬戸内市を除く）コンピューターを使った「OCR注文」を開始
1984年　5万世帯に
1985年　商品センター完成、共同仕分けが可能になる
1986年　商品資産評価
1987年　組合員数10万世帯に
1988年　第1号店舗「コープ大野辻インマン」オープン
1989年　（株）コープP&S設立
1990年　「おかやまコープを呼称
組合員数15万世帯に
おかやまコープの長期計画を策定
1991年　生活文化の発信基地として「オルガ」開設
1992年　組合員数20万世帯に
再建20周年記念式典
1994年　再建第2期スタート
1995年　正式名称「生活協同組合おかやまコープ」に
共同購入の個人別仕分けによる配送開始
2000年　共同購入の個人別セット開始
2001年　再建30周年「コープフェスタ2001」
コープCSネットワーク（コープ中国四国事業連合）設立
2004年　組合員数30万世帯に
AMDAと災害協定を締結
2005年　再建35周年「コープフェスタ2005」
2007年　再建40周年「コープフェスタ2007」
2009年　岡山県・日生町激増とNPO法人里海づくり研究会議とアマモ場造成活動に係る協定締結
2012年　国際協同組合年フェスティバルinおかやま
2013年　岡山県・邑久町初のNPO法人里海づくり研究会議と「アマモ場造成活動」締結
（株）コープファーム おかやま設立
瀬戸内と「コープ産直農園」締結

おかげさまで 40th anniversary CO・OP OKAYAMA

おかやまコープ　くらしをつくる　Vol.14

生活協同組合おかやまコープは今年、再建40周年を迎えました。「岡山生協」は1974年に1億3千万円の資金を得て倒産しました。しかし、直後に50人の組合員と4人の職員で「岡山から生協の灯を消すな」という声に応え、再建しました。2014年6月末現在、同コープは32万世帯が加入する、地域になくてはならない組織へと成長しています。苦難の歴史はありませんでしたが、組合員はじめ生産者や取り引き先、地域のさまざまな団体とのつながりに支えられ、節目の年を迎えることができました。同コープの取り組みの到達点や地域づくりへの参加を目指す取り組みなどを紹介します。